



第75回(令和4年3月9日) 新型コロナウイルス感染症対策 アドバイザリーボード	資料3-11①
阿南先生提出資料	

神奈川県死亡者に関する緊急調査

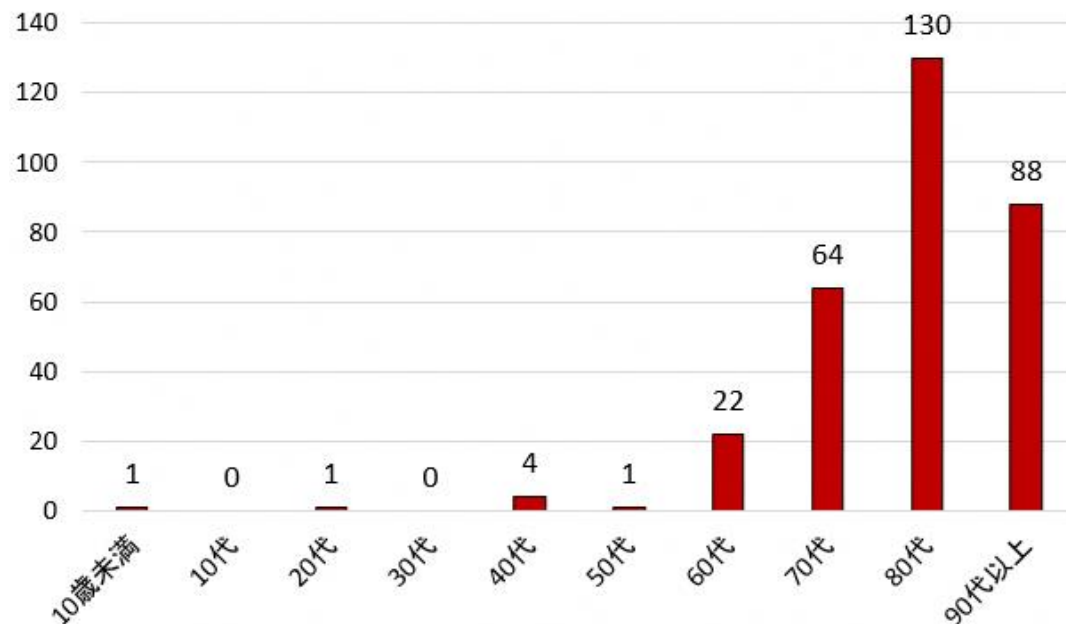
神奈川県 医療危機対策本部室

2022年3月8日

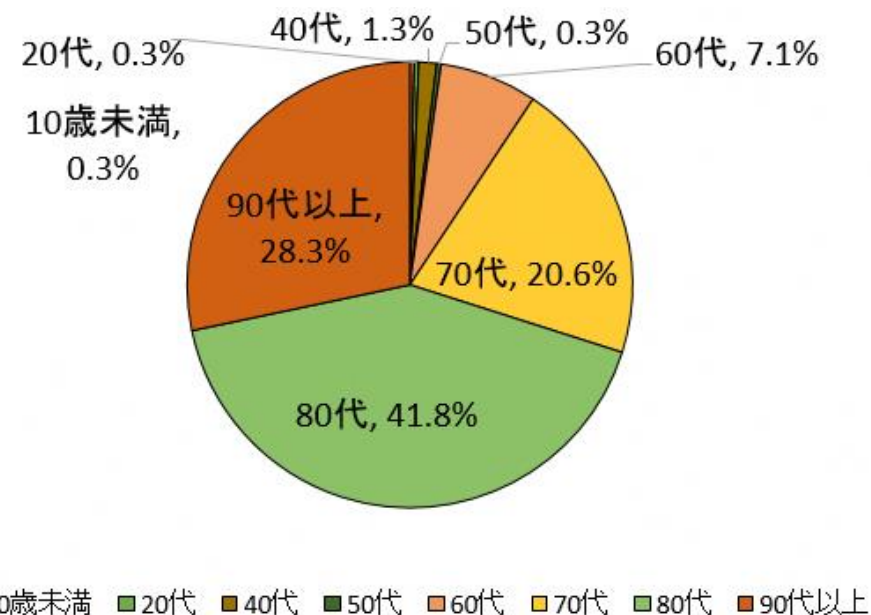
令和4年1月～2月の死亡者数（年代別）

○ 年代別の死亡者数は、60歳代以上で約98%、70歳代以上約90%

◇ 令和4年1月～2月の年代別死亡者数（実数）311人



◇ 令和4年1月～2月の年代別死亡者の割合



（出典） COVID-19入院者傾向調査（2月分は速報値）

※ 1月分の回答医療機関数：97 回答率：98% 2月分の回答医療機関数：79 回答率：78.2%

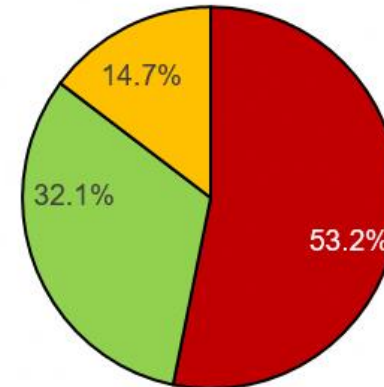
○ 令和4年1月～2月におけるCOVID-19陽性患者である死亡者の死因を調査したところ、死亡者数312人のうち、**主たる死因がCOVID-19であると判断できる人数は166人となり、全体の約53.2%を占める**ことがわかった

◇ COVID-19死亡者の死因内訳



- 主たる死因がCOVID-19であると判断できる
- 主たる死因がCOVID-19以外であるか判断できない
- 主たる死因が老衰またはCOVID-19以外の疾患等であると判断できる

◇ COVID-19死亡者の死因内訳



- 主たる死因がCOVID-19であると判断できる
- 主たる死因がCOVID-19以外であるか判断できない
- 主たる死因が老衰またはCOVID-19以外の疾患等であると判断できる

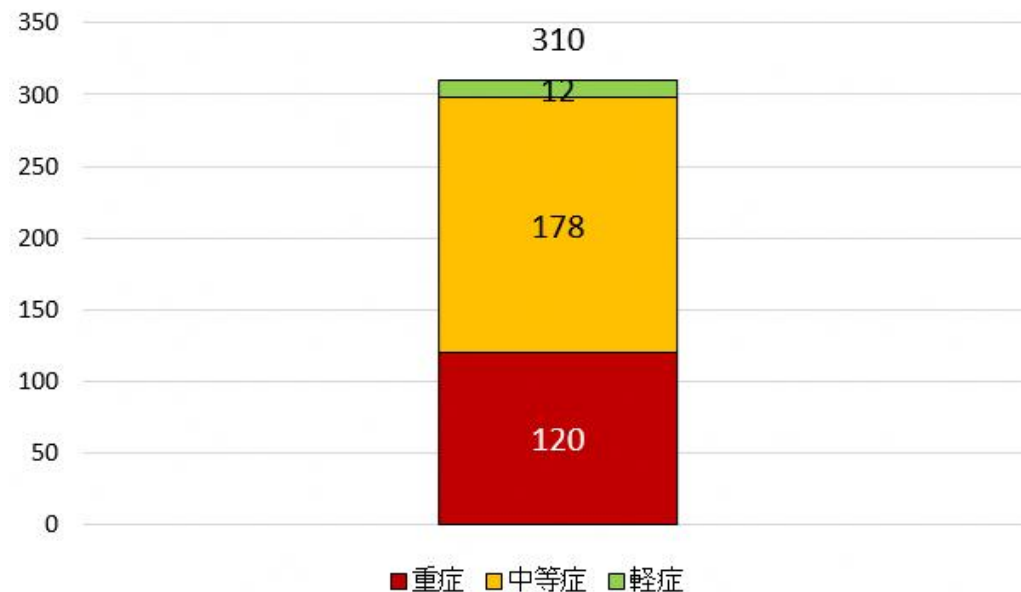
(出典) COVID-19死亡者死因調査

※ 1月分の回答医療機関数：55 回答率：54.5% 2月分の回答医療機関数：65 回答率：64.4%

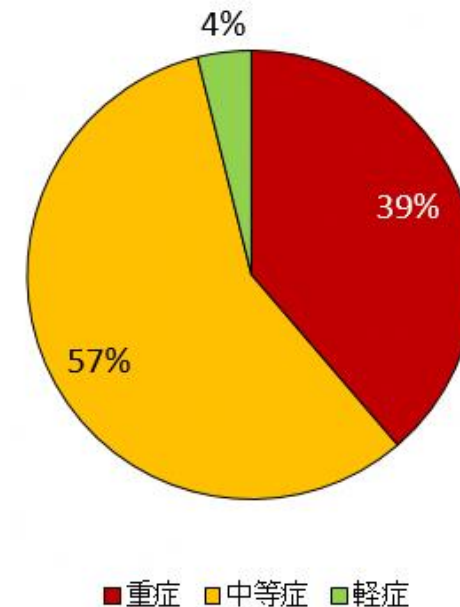
令和4年1月～2月の死亡者数（重症度別）

○ 重症度別の死亡者数では、中等症で死亡した患者の割合が約57%で、最も高い割合となっている。

◇ 令和4年1月～2月の重症度別死亡者数（実数）



◇ 令和4年1月～2月の重症度別死亡者の割合



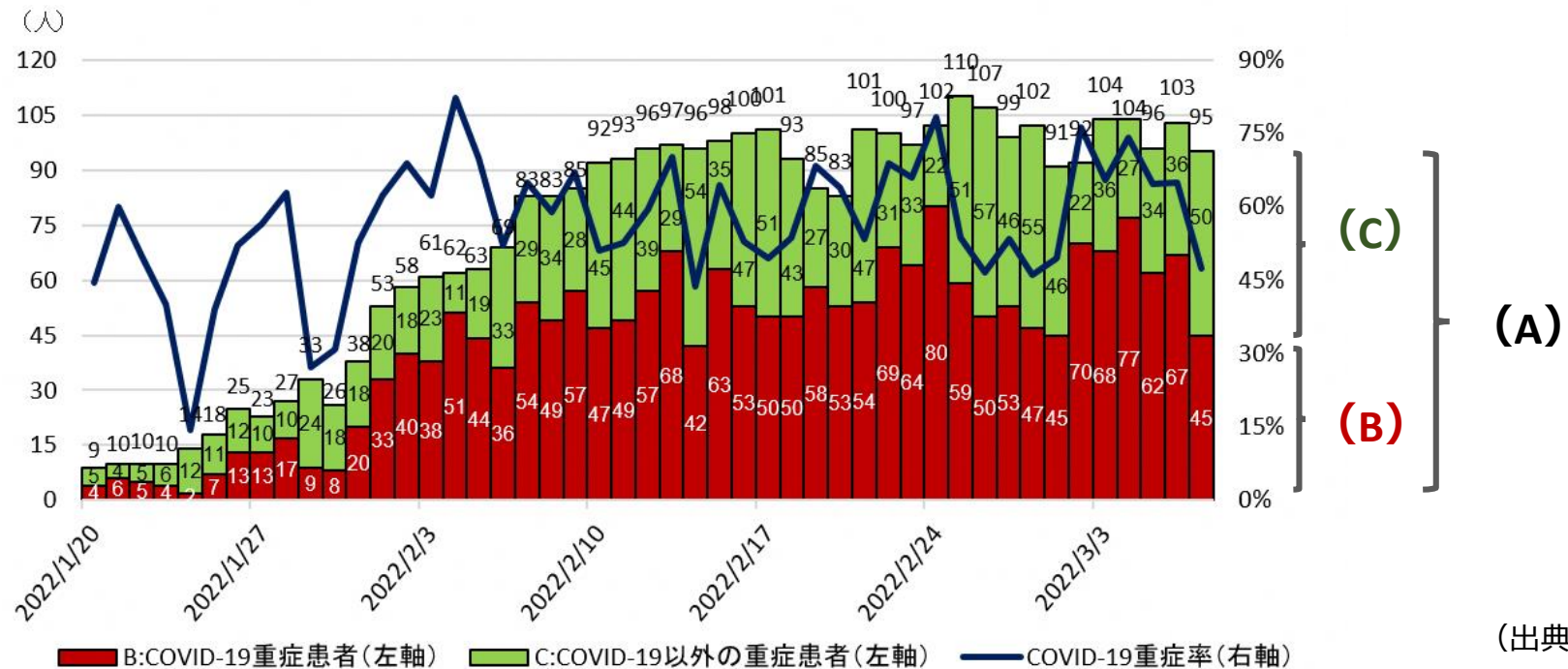
（出典） COVID-19入院者傾向調査（2月分は速報値）

※ 1月分の回答医療機関数：97 回答率：98% 2月分の回答医療機関数：79 回答率：78.2%

参考) コロナ用の重症病床に入院中の患者数について

- コロナ用の重症病床 (ICU・HCU等) に入院している患者 (A) のうち、
 ① **コロナが重症のコロナ患者 (B)**、② **コロナ以外の疾患が重症のコロナ患者 (C)** の推移は以下の表のとおりである。
- 3月7日 コロナ用の重症病床 入院者：95人 うち、コロナ重症：45人
 重症率 (B/A) = 47.4%

◇ コロナ用の重症病床に入院中の患者の内訳とコロナ重症率



(出典) kintone日次報告



第75回(令和4年3月9日) 新型コロナウイルス感染症対策 アドバイザーボード	資料3-11②
阿南先生提出資料	

感染急増期における効果的な 「接触者調査・濃厚接触者特定」に関する見解

阿南英明 太田圭洋 大竹文雄 岡部信彦 押谷仁 釜范敏
高山義浩 中島一敏 前田秀雄 和田耕治 脇田隆字 尾身茂

1 はじめに

地域によってはオミクロン株の爆発的な増加に伴い2つの課題が顕在化してきている

課題 1

濃厚接触者の欠勤により社会機能の維持が困難になっている

本人が濃厚接触者となったり、家族が濃厚接触者であるために欠勤する職員が増加し業務に支障をきたすなど社会機能維持の障壁となっている

課題 2

保健所業務が逼迫している

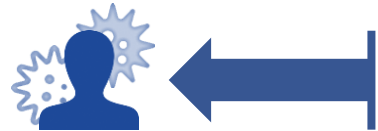
保健所業務が逼迫して、必要な接触者調査や重症化リスクがある人への対応などが十分にできない地域がでてきた

本レポートの目的は、これまでの我が国が取ってきた**クラスター対策**や**濃厚接触者調査**を振り返りながら**上記の二つの課題に対する解決の方向を検討**するものである。

2 COVID-19に対する接触者調査の意義

COVID-19に対して我が国で流行初期から保健所によって行われてきた接触者調査は、大きく分けて2つに分類される

1 さかのぼり接触者調査



- 我が国特有の調査
- クラスタ発生源を見つけ、クラスタ連鎖を阻止することが目的
- 特に**感染拡大初期には非常に有効であり、我が国の感染対策に大きな効果を果たした**

2 前向き接触者調査



- 濃厚接触者をフォローし発症早期に治療等実施
- 二次感染三次感染の予防が目的
- **そもそもさかのぼり調査に比して感染拡大抑制効果は限定的であり、感染拡大期に効果が低下する**
 1. 家庭内を除くと二次感染率は極めて低い
 2. 発症1~2日前でも二次感染が起こり得る
 3. 世代間時間が短くなって急速に感染が拡大しているので、**接触者調査が感染伝播のスピードに追いつかない地域**が増えてきている

オミクロン株であっても、接触者調査を効果的に行うことができれば、一定の感染抑制効果はある

3 保健所を介さない接触者調査



たとえば保健所が接触者調査を行わなかったとしても...



事業所

や



学校・保育園等

が

- 保健所によらず
- 自主的に、あるいは個人の判断で

濃厚接触者を特定することは可能

(だが過剰な対応にならないように注意すべき)

4 効果的な対策

1 これまで通り保健所でのさかのぼり調査、前向き調査が可能な地域などでは継続

2 困難な地域・状況で求められる対応は次のとおり

対応 1

保健所の判断ではなく、個人の判断で濃厚接触者にあたる場合

個人に対する一律の外出制限を求めるのではなく**必要な最低限の社会行動（勤務を含む）を許容**する。学校や事業所等による自主的な調査はあり得るが、一律に自宅待機にするなど、過剰な行動抑制にならないように注意すべき。家庭の場合には感染リスク高いのでより慎重に対応する。

対応 2

高齢福祉施設などに関して保健所による調査・特定を継続する

- ① 閉鎖的な共同生活をする高齢福祉施設などの社会福祉施設等や療養型医療機関において、3次4次感染連鎖によるクラスターの発生や拡大を阻止する意義があり、必要な行動制限を求める
- ② 従来の濃厚接触者定義によらず**広範囲・積極的に検査を実施する**必要がある

5 調査に拘わらず、誰もが実行すべきこと

調査・特定に拘わらず、誰もが常に実行することを社会全体で共有する必要がある

社会全体への提言

1. 追跡が困難な接触者が社会にいる中での**感染予防対策（リスクの高い接触機会を減らし、確実なマスク着用・換気に努める）**を徹底すること
2. 症状があるときには**職場/学校を休む**こと、事業者や自治体は**休める環境を確保**すること

6 終わりに

- **年度末をきっかけにして再び感染拡大に向かう可能性**や、さらに感染性が高いとされる **BA2系統による感染拡大の可能性**もある。
- 状況が落ち着き、少数の感染例発症への対応が必要になった場合、また、新型コロナウイルスは変異を繰り返すので、オミクロン株と大きく性質が違うものが出現した場合などには、**再度調査に基づく濃厚接触者特定が必要になる可能性**はある
- 接触調査等が継続可能な地域や状況においては、調査・特定を実施する